

家庭

和紙素材の糸と開発したニットシャツを手にする國分博史さん=東京都墨田区の和興



海外からも先進性に注目

衣服の生産過程で出る二酸化炭素や在庫廃棄などが課題のアパレル産業は、サステナビリティー(持続可能性)が求められている。そんな中、東京の縫製会社「和興」(東京都墨田区)が和紙素材のニットTシャツを開発した。生分解性があり、涼感ある着心地、吸湿性、抗菌性などにも優れ、海外からも先進性が注目されている。

和紙製ニットTシャツ開発

このTシャツの素材は、福井県産の越前和紙の糸。和紙繊維製品メーカーのキユアテックス(同世田谷区)などと協力して開発し、試行錯誤の末に3年がかりで成功にこぎ着けた。和紙をテープ状に切ったものを通

リピンに自生している多年草で、農薬はほとんど使っていない。地中に埋めて約半年後に完全に土に戻ります」と話す。和紙製の服というと、織物はあったが、糸が切れやすく伸縮性を出すのが難し

ットの製品化を実現しました」と國分さん。和紙独特の「しゃり感」もある。機能性の検査を行うと、汗を素早く乾かし、繊維に細かい穴が開いていること

と評価された。米国のアパレルブランド、ドイツの小売店などからも声を掛けられ、國分さんは手応えを感じている。



和紙素材のマスク

常の何倍もねじり合わせてあるという。専務の國分博史さん(41)は「原料のマニラ麻はフィ

い編み物は今まで例がなかったという。そこで「湿度を管理しながら、通常よりかなり低速で編むことで二

で菌の繁殖を抑えることも分かった。多年生植物の樹皮には紫外線を遮断する力も。新型コロナウイルスの拡大を機に、この和紙製マスクを販売したところ、「着心地が良い」と大きな評判を呼んだ。

今年1月には、イタリアで開催された世界最大級の服飾展示会ピッティ・ウオモにこのシャツを出品。海外のバイヤーから「先進的なサステナブルファッションとしてアピールできる」



和紙素材の原料であるマニラ麻